

はじめに

ホイアンの町並み保存活用の共同事業に続いて、1997年からベトナムの文化情報省文化財保存局と共同してベトナム全土の民家調査をはじめました。それ以来8年がたち、科学研究費2回（9省）、私学研究補助金（3省）の調査費をいただき、合計12省の調査が出来ました。

昭和女子大学国際文化研究所は、ベトナムの研究者・技術者と共同して、かつて日本人町があったと伝えるホイアンにおいて古い町並みを調査し、保存計画をたて、それを実行し、その間に日本側が持っている町並み保存に関する知識・技能をベトナム側に伝える事を目的に、設立されました。その最初の成果が、ユネスコの世界文化遺産に登録されるところまでできたことを受けて、事業をベトナム全土の民家調査へ発展させながら、この事業をベトナム側と協同しておこなっていくなかで、日本で敗戦後に展開された県ごとの古民家悉皆調査と民家保存の手法を、ベトナム側に移転しようとしてきました。

これまでの調査の結果は、現存する古民家の調査から、ようやくその中で地域ごとの代表的な民家を選び出し、更にその中で、保存のための復元的な修理を試みるところにまで発展してきました。これまでベトナムの民家を体系的にとらえようと努力してきましたので、ようやく地域的な特色を洗い出すところ迄来たように思います。更に進んで、ベトナムの民家を歴史的に体系化することは、これまでの日本における日本の民家の歴史的な体系化が特定の構法や特定の平面形式の成立過程にとどまっている現状を見ても、現在の状況では不可能に近いといわなければなりません。ベトナムの研究者と協同で調査をおこなってきたとはいえ、日本から出かけての調査期間から考えても、架構等の建築技術を復元的にとらえ構法上から考察し、平面を現在の生活との対応から建築計画学的にとらえることはできたとしても、歴史学、民族学、民俗学、文化史学等々の背景を十分理解した上でないと、歴史的に記述することはおろか、地域的な総括すらおぼつかないでしょう。

本当の総括は、ベトナムの研究者の今後に期待したいと思います。今回の報告が、そのきっかけになればと願っています。

昭和女子大学国際文化研究所長

教授 平 井 聖